カトリック高松教区報

２０２３年7月１６日（第２１４号）
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区:catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yousei@takamatsu.catholic.jp
WEB　http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

マザー・テレサの言葉

木々、花々、草々は、静けさのうちに成長します。星々、太陽、月は、静けさのうちに動いています。静けさは、わたしたちに、物事に対する新しい見方を与えてくれます。

子どもと共に育つ ～モンテッソーリ教育を通して～

乾　盛夫 神父

自分でできることをさせてくれる環境が、子どもにとって一番自由で幸せみたいです。自分で体験することを土台にしていることが、その子にとって一番本物の体験になります。外の力ではなく、子ども自身の意識で広がっていく勉強の仕方、そして、わかって適応していく、それを私は自立だと思っています。自分が判断して動けるようになるし、そうなれることは子どもにとって喜びなんです。自分ができることを他者に活かすことで、友だちや家族がそこにいることが、欠かせない大切なことだとわかってきます。人に役立つという、素晴らしい人間の本質的な力が意識されます。この意識が、子どもの自立の根っこにあって、自分のためだけではなくて、人に役立とうという素晴らしい自由を子どもは自分の中に感じます。そのことを通して集団の中に入っていける自分を意識するようになると、不思議なことに、自分と他の子を比べません。比べられない自分をしっかり意識して克服し、見つけていきます。これは素晴らしい年齢混合の環境での子どもの育ちです。

それを周りにいる大人が認めれば、その子どもにとって鬼に金棒です。残念ながら、なかなか大人はそれを認めたがりません。小さいからということで、あるいは初めて体験する子どもたちに、大人はしてやりたい思いにかられ、「言われたとおりにしなさい」とか「こういう風にやりなさい」とか、つい言ってしまいます。そこで発する言葉や必要な動作を、子どもがわかるようにしてさえすれば心配ありません。これが大人の子どもへの大事な寄り添い方です。そしてその子どもたちは、相手を大事にする人になっていきます。困っているこどもがいたら見守りますが、あえて不必要なことはせず、できるように見守る案内役となり友だちとなっていきます。

子どもは、人に役立つ自由を奪われることに、いつもある種の不満を持っています。大人が少しでも早くそのことに気づけば、子どもは自分を認めてもらったと感じ、大事にされていることがわかります。それは、好きなものを何でもくれる、というのではなく、自分が人に役立つという体験をさせてくれる、そういう受容に対する感謝です。そのような環境に身を置くなら、子どもはどんどん社会性を身につけていき、人やモノを大事にしていきます。

創られた地球が、その本来の実りを得るために、私たちも子どもと共に子どもを通して育つことを深く味わいたいと思います。私たちは、その地球の実りが豊かになるように望みながらも、一方では科学の進歩と共に、破壊ももたらしてしまいます。私たちは人類として地球を託されたことを忘れてはいけません。できれば、しなければならないことは、それを子どもと一緒に唱えていくことです。私たちは自分で育っているようで、実は色々な生き物の生命の恵みで育まれています。私たちは家庭家族、人類家族、そして地球家族の中で、特に子どもと一緒に育つという特別な恵みを頂いています。幼年期から少年期、青年期へと、良いものになろうとするこの子どもの心に触れられる私たちは、大きな大きなお恵み、特権でしょう。そのことを味わっていくのが、私たちモンテッソーリ教育の土台です。土台はそこにあって、幼稚園、保育園、学校ではありません。子どもと共に育つという、地球上での人類の役割を十二分に実らせていく、その大切な大切な使命を、私たちは人類という名前において預かっています。預かっているのであって、ちゃんと返さなくてはなりません。誰にでしょうか。生命の創り主です。その創り主が私たちに全てをお任せになったように、全ての生き物は、共に生命を喜ぶ生命に育つことを、私たちは探し求めなくてはいけません。それができるようになれば、きっと地上はもっともっと平和で、その大きな喜びが毎日与えられるでしょう。それは、生まれてきて良かった、ここにいて良かったという、心からの喜びが日々与えられていくことになります。それは、小さい子ども、あるいは小さくされた人々と共に働くことによって成り立つ人類の文化でもあるのです。「小さいから」ではなく、純粋だから、多くを持たないから、本物を求めるから、彼らと共に歩むことが私たちに託されている秘訣、地球を平和に作り変える秘訣です。それを目指し、手を繋いで一緒に歩んで参りたいと思っています。

乾神父（昨年の誕生日に）

はばたき

『井の中の蛙大海を知らず』と古いことわざがある様に、私も受洗して50年以上を過ぎても、いまだに迷える子羊?です。受洗後、機会ある毎に日本各地の教会を訪れて、当時自分が所属する教会と比較し、夫々の違いをみて素晴らしさを発見していました。

今から約25年前と翌年にスペインを旅行した時、観光旅行よりほとんどが教会巡りでした。マドリード、グラナダ、バルセロナ、トレド、アビラ、バレンシア、レオン、セゴビア、ブルゴス、サンチャゴ・デ・コンポステラ、サラマンカ、サンセバスチャン、パンプローナと大聖堂や大きな修道院を観て、途中でフランシスコ・ザビエルのお城や地方の街や教会へ行き、またバルセロナに行った時、近くにモンセラートという巨岩の塊になった山の頂上に、大きな美しい教会がありました。アントニオ・ガウディーがサクラダファミリアを作る時の設計のヒントにされたとか、余りのスケールの大きさと美しさに感動を覚えました。

流石スペイン！日本の教会と雰囲気や佇まいが全然違い、そのスケールや年代の違いというか教会の歴史が永すぎて、その深さに驚きました。聖堂の中に足を踏み入れた時の空気の違いを肌で感じ、信仰の弱い私の心を奮い立たされたような気持ちになりました。古い街ではローマ時代の建物の跡が、現在でも一部が見られるようにガラス張りにして遺跡を残し、その上に建物を建造する発想がその街全体の歴史を感じました。

想像を超えた桁違いの大きさ、古さ故に他の宗教と文化が入り混じり、余計に荘厳さが増されていると思いました。そんな中に身を置き一心に祈る心に、どれだけ神様の力が頂けたであろうか。

いちばんの大きなお恵みは、帰国する日マドリードの空港で、出国手続きを終え搭乗を待つ間、トイレの中に全財産の現金とパスポートとチケットを入れたバッグを忘れ、しばらくして気付き慌てて取りに行った時に、無事そこにあった奇跡でした。その時、空港ロビー内で日本人グループがスリにあったとかパスポートを盗られて日本大使館へ行った・・・との話を傍で聞いていて、ホッとした記憶があります。

各地を熱心に巡礼したお陰でしょうか?帰国してから教会に対する見方が変わりました。やはり中身は我が心持ちだと・・・。また、違う国の教会を観てみたいです。

ルカ助祭　叙階おめでとうございます

5月１３日、ドミニコ会のルカ・ジョン・ソックン師（LUKE JEON SHOK HOON OP、３８歳）の助祭叙階式が、カトリック松山教会で使徒ヨハネ諏訪榮治郎名誉司教により執り行われました。

ルカ助祭は、韓国釜山出身です。経歴は・・・

2009～2013 釜山教区神学生
　　哲学、神学を学ぶ
2015　ドミニコ会ロザリオ管区に入る
2018　有期誓願を立てる
2020　マカオの聖ヨセフ大学にて修士号（教育学）を取得する
2021　終生誓願を立てる
2023.5.13　助祭に叙階される

ルカ助祭は、現在約３週間の予定で、ベトナムでの"Common Study program"に参加しておられます。

カトリック幼稚園めぐり　東讃ブロック
神の愛に包まれて

今号から地区ごとに幼稚園を紹介し、あわせてチャプレンの一言を掲載します。最初は東讃ブロックの幼稚園紹介です。

東讃ブロックには桜町聖母幼稚園、高松聖母幼稚園、長尾聖母幼稚園、そして聖母被昇天修道会のマリア幼稚園があります。

桜町聖母幼稚園は、１９５２年（昭和27年）に故田中英吉神父様によって開園しました。当初は70名程度の園児でしたが、隣にカトリック桜町教会が建設されたり、園児数の増加によって園舎を増改築したりして、現在のような園風景になっています。

本園は、教育方針として次の３つを掲げています。

「キリスト教の教育理念を根底に据え、一人一人の園児を『神から託された聖なる者』として大切にする中で、思いやりの心を育てる。」

「モンテッソーリ教育を通して、豊かな人格が形成されるように支援や援助を行う。」

「縦割り保育を通して、社会性や協調性、独立性を育てる。」

子どもたちは、登園すると、保護者と一緒に聖堂前で十字架に向かってお祈りをしています。週に2回、チャプレンの森神父様に明るい声であいさつをしています。

また、様々な行事で聖堂に集まったときは、森神父様が神様のお話をしてくださり、神様が自分たちのすぐ近くにいらっしゃること、優しいまなざしで私たちを見てくれていること、困ったときは耳元でそっとささやいてくれていることを子どもたちは実感しています。

高松聖母幼稚園では、全園児が聖堂訪問し、チャプレンの高山神父様から神さまのお話を聞くところから、一週間がスタートします。お話や歌を聞きながら、「自分が神さまから愛されているかけがえのない存在である」「あなたは、あなたのままでいい」と、存在をまるごと受け入れてもらえている喜びを、じっくりと味わいます。今では、戸外で爽やかな風に吹かれながら、～きみは愛されるため生まれた　きみの生涯は　愛で満ちている～と声を合わせて歌うことも、日常の姿になっています。

また本園には、３代続けて通ってくださる方もいらっしゃり、最初に出会う学校に本園を選んでくださった方々が、幸せでいられるように、教職員一人ひとりが、それぞれが持つ良さを生かし合いながら、お互いを尊重し、人と人とが温かくつながる日々の営みを大切にしながら保育を行っています。

一人として取り残さず、一人ひとりが認められ愛される幼稚園を目指し、祈る毎日です。

長尾聖母幼稚園とモンテッソーリ教育

故山下神父様はじめ、多くの神父様たちが築き上げてこられた長尾聖母幼稚園。四国で一番最初にモンテッソーリ教育を取り入れた伝統園です。

この園に赴任してまず驚いたのが、先生達の園児への声掛けの素晴らしさです。子どもに大きな声で指示を出すことなく誘導するテクニック。子どもたち一人ひとりが愛される保育。おかげで、保育の難しかった子どももこの園で過ごすうちにみるみる変わっていきます。モンテッソーリ教育の素晴らしさを痛感いたします。

せっかく幼稚園で培った素晴らしい教育が小学校以降の教育に受け継がれていかないことが残念で、昨年から卒園生を対象に放課後児童クラブを始めました。

今後もチャプレン高山神父様の協力も頂きながら、この地球の平和を担っていける人材を育てていきたいと思います。

マリア幼稚園は、香川県の高松市にあり、聖母被昇天修道会が母体となって設置した幼稚園です。

自然の恵みや人の優しさに抱かれて、基本的な生活態度と実践力を身につけ、優しさや思いやりの気持ちを育むことに力を注いでいます。

縦割り保育を導入し、年齢の違う子どもたちが同じクラスで活動しています。年下の子どもは、年上の子どもの活動を見て学び、憧れを抱き、年上の子どもは、年下の子どものお世話をし、自信を持って社会性と協調性を自ら学びます。クラスの中で自然と役割「社会」が生まれます。

またモンテッソーリ教育法を取り入れ、午前中には教具を使った活動（おしごと）をしています。お昼は自然給食とし、シスターと子どもたちが育てた野菜も使い、自園で発酵させた納豆や発芽玄米を取り入れ、体に優しい自園給食を提供しています。

子どもたちが「明日も幼稚園に行きたい！」と思ってもらえるように、〝先生たちが保育を楽しむ〟を目標に掲げ、ひとりひとりの心を大切に育てる保育にシスターも一緒になって取り組んでいます。

～チャプレンから～

東讃ブロックでは高山徹神父（長尾聖母と高松聖母）と、森一幸神父（桜町聖母）がチャプレンを担当しています。

高山神父から

長尾聖母幼稚園には、木曜日に定例訪問します。園長先生が聖堂で子供達に紙芝居を読まれた後、その日の物語についてチャプレンから子供達に質問しながら大切なメッセージをまとめ、お祈り・祝福をします。空き時間は子供達と遊びます。先生方に聖書のお話をする時間、幼稚園行事での保護者の方々との交流、放課後児童クラブでの卒園児の子供達との交流の時間も頂いています。

高松聖母幼稚園には、月曜日に定例訪問します。子供達と先生方が聖堂に集まりお祈りをされた後、チャプレンが絵本をプロジェクターで映写して子供達に質問しながらお話します。空き時間は子供達と遊びます。月に一度は、先生方の聖書クラスとお母さん方のクラス（子育てサロン）をさせて頂いています。

私は、叙階直後からチャプレンとして園に関わらせていただきました。たくさんの出会いと学びをいただいた5年間でした。これからも、チャプレンとして、子供達・先生方・保護者の方々と一緒に、カトリック幼稚園を大切にしたいと思っております。

森神父から

桜町聖母幼稚園では、月曜日と木曜日に登園されるお子さんのお出迎えをしています。元気に登園するお子さんや気分がなかなか優れないのか、泣き崩れるお子さんもたまにいらっしゃる様子を見て、親御様や先生方のご奉仕には頭が下がる思いです。

また、幼稚園行事には、神さまの話やマリア行列など、教会に関することから、日帰り遠足などにも参加させていただいております。これからも幼稚園のお力になれるように頑張って参ります。

（丸亀教会ザンドロ・ヴェントゥラドさんから、次ページ２段目に和訳）

Zandro Venturado

Hello evryone! My name is Zandro Venturado, married and a father of two. I came from Philippines and has been living in Japan for almost 22 years now. Ever since I came here I almost live most of the years in Marugame City. Prior to my permanent residence I came in Japan in a very young age and single. I worked in a lumber company with my mother and some relatives. Presently, I am working as a welder in a shipbuilding company, then I got married to a Fillipina and we have our two children. The first was born in the Philippines and the second child was born in Japan.

Since the beginning of my residence here, I've been going to Marugame Catholic Church and have been an active member of our church. It is always, in fact, my pleasure to organize some Filipinos to attend Filipino Masses even though it is seldom to happen. I also let my children have their Baptismal, First Communion and Confirmation in the Church. My son is now an altar boy to assist the presiding Priest on masses.

Sometimes, we had a hard time to go to the church because of some unavoidable events, busy schedule and work loads.

My wife and I were classmates way back elementary and high school. During our students days, we were in a Catholic school governed by RVM sisters (Religious of the Virgin Mary) . We've been taught and had studied Christianity values and Catholic ways even up to college. Being a Catholic has been in our life pattern and has been a foundation of our being.

To this moment, I am thinking to stay in Japan even my family and I will age. By then, I would still bring them with me to the Church because I know that a family centered in God will become strong, will have sympathy to others, loving and forgiving members of the Church.

外国出身の信徒ともに

外国人信徒の小教区や地区での活動、日本の教会に対する思い、日本での生活のことなどを特集しました。

丸亀教会
～ベトナムから～

丸亀カトリック教会で活動しているベトナム人です。日本に行く前は皆さんの事は全然知らないですが、日本で皆さんに出会えたのも全部カトリック教会のお陰だと思います。

実家を離れて、家族と離れて、友達とも離れて日本の国に来た時は、最初は不安がいっぱいでした。でも、自分たちの行くところにはカトリック教会があって良かったと思います。日本で仕事と住むところも別々ですが、やっぱりカトリック教会があってからこそ皆さんと繋がれます。毎週、日曜日に教会でみんなと会ってミサに参加し、ミサの後みんなでお茶を飲みながら語り合うのがとても楽しみです。みんなの仕事は、エンジニアとか工場で溶接工だとか、外食業とか現場の仕事とか色々と違いますが、でも思いは同じです。それはキリストの信仰です。今、丸亀カトリック教会で17人ぐらい活動しています。多分、今カトリック教会に行きたい人がいっぱいいると思います、

仕事の疲れとか、仕事の都合で行けないと思います。これからもよろしくお願いします。

丸亀教会ベトナム青年

～フィリピンから～

皆さん、こんにちは！私はザンドロ・ヴェントゥラド。結婚しており、2児の父です。フィリピンの出身で、日本に住んで22年目になります。

日本に来てからのほとんどの期間を丸亀市に住んでいます。永住権を取得する前、私は若くして日本にやってきて、独身でした。母や親戚と一緒に木材会社で働き、現在は造船会社で溶接工として働いています。その後、フィリピン女性と結婚し、2人の子供がいます。1人目はフィリピンで生まれ、2人目は日本で生まれました。

ここに住み始めた当初から、私は丸亀カトリック教会に通い、積極的に教会のメンバーとして活動してきました。フィリピン語のミサはなかなかありませんが、それに参加するためにフィリピン人をまとめるのは、私の喜びでもありま

八幡浜教会
ベトナム研修生の送別会

愛媛地区八幡浜教会では、ベトナムからの技能実習生が毎週ミサに参加し、ミサの準備を手伝っている。6月からは閉祭の歌をベトナム語聖歌とし、ベトナム実習生の伴奏で歌っている。男性の実習生は信者さんの支援を受けて、自動車の仮免許に合格した。

このようなかかわりをもっている実習生が、今年は8月、12月と帰国する。既に母国に3人の子供がいる実習生は、子供たちに会えるのを楽しみにしている。コロナ禍で様々な活動に制限を受けたために日本文化の体験も少なったようだ。そこで実習生らが和服を体験したいとのことで、八幡浜教会信者宅で「浴衣を着る」体験を行った。和服姿で石焼き窯焼きのピザを作り、聖霊降臨のミサを諏訪名誉司教司式の野外ミサに参加し、ミサ後には焼きあがったピザを会食した。日本での必ずしも楽しいだけの仕事ではなかったと思うが、この日の感想として、「また、ここに戻ってきたい」とのメッセージが信者のSNSに届いた。ベトナム実習生の間では、実習先の雇用主が、カトリックはこの辺にはないよといっていたが、「『お父さん』がミサに連れて行ってくれる」という情報が交わされているとのこと。

上：諏訪司教司式ミサ
下：手作りのピザでにっこり

この15年間ほどでは数名が実習終了帰国後に再来日することがあり、日本人のコミュニティーとの連携・交流が実を結びつつあるといえる。諏訪名誉司教は、説教の中で、ベトナム実習生に向かって、「あなたたちは仕事だけのために来日したのではない、キリストと共に来たのです」とのべ、励ましている。日本人だけの小さな共同体が、新たな姿になっているといえる。

（下段コラムに研修生手記）

私たちは大学まで、キリスト教の価値観やカトリックのあり方を教えられ、学んできました。カトリック教徒であることは、私たちの生活の中にあり、私たちの存在の基礎となっています。

今私は、私たち家族が年をとっても日本にいよう、その時になっても家族と一緒に教会に行こうと考えています。なぜなら、神を中心とした家族は、強くなり、他人を思いやり、愛と寛容を持った教会の一員になれると知っているからです。

（前ページコラムに原文）

～イタリアから～

皆さん、こんにちは！

私は15年前にイタリアから来ました、カンポダルオルト・アンドレアと申します。

現在48歳、日本人の妻と結婚してからずっと香川県丸亀市に住んでいます。

子供は女の子が2人で、13歳と11歳です。去年、娘たちは丸亀教会で初聖体を受け

（次ページへ）

八幡浜教会ベトナム研修生の手記

Đinh Thị Nga（ディン・ティ・ンガー）さん（下写真の中央）

（日本語で）こんにちは。私はンガーといいます。今まで、実習生として日本に働いています。

初めて日本に行ったとき、日本語にしても仕事にしても生活にしてもなれなかったので、とても困っていたけど、みんなのおかげで私は楽しくなれました。

浴衣を着たベトナム研修生

日本で仕事する時間以外の私は、社長さんに松山城とか、花見とか花火とか、いろいろな場所に連れて行ってもらった、本当に私は運がいい人だと思います。もっともっと幸せなことは教会に行けました。教会で神父さんとおじさん、おばさんたちとほかのベトナム人と一緒にmi-saをおこないます。教会に行くたびに疲れが取れるし、悩みも消えるし、楽しくなっていると感じます。教会でみんなが一つになって、家族みたいと思います。神父さんとおじさん、おばさんは両親という、私たちは子供です。

教会で初めて浴衣を着て、ピザを作ってもらった。いろいろな記念ができました。そろそろ3年間の実習生期間が終わります。ベトナムに帰国することになっているんだけど、3年間、いろいろお世話になりました。

みなさんとたくさんたくさん思い出ができてほんとによかったです。ベトナムに帰国してもみんなさんのことをぜったいにわすれないです。いまから、みんなさんの健康と活躍を祈ります。みんなさん、お疲れさまでした。まことにありがとうございました。

Mai Thanh Uyên（マイ・ティタン・エン）さん（左写真の向かって右）

Xin chào tất cả mọi người.

Mình là Mai Thanh Uyên đến từ Việt Nam. Hiện tại mình đang sống và làm việc tại tỉnh Ehime của Nhật Bản. Tháng 8 năm nay mình sẽ về Việt Nam kết thúc hành trình 5 năm của mình nơi xứ người. 5 năm qua mình đã học được rất nhiều điều hay và mới mẻ qua việc khám phá đất nước và con người Nhật Bản. Mình biết thêm về một nền văn hoá mới quen được rất nhiều người tốt học được nhiều điều hay. Nhật Bản đã cho mình nhiều cơ hôi phát triển bản thân và trưởng thành. Ở đâu cũng có nhiều mặt tốt và mặt xấu nơi đây không phải màu hồng nhưng nó xứng đáng để mình nói lời cảm ơn. Cảm ơn Nhật Bản. Cảm ơn những người bạn tốt mà mình đã được gặp. Rất vui vì đã được gặp mọi người.

（本人和訳）こんにちは、みんな

私の名前はベトナム出身のマイ・タン・ユエンです。現在、私は愛媛県に住んで働いています。今年の8月にベトナムに戻り、5年間の異国での旅に終止符を打ちます。過去5年間、私は日本という国と人々を探索することで、新しくて興味深いことをたくさん学びました。新しい文化についてさらに学び、たくさんの良い人たちに会い、たくさんの良いことを学びました。

浴衣姿でピザづくり

日本は私に自分自身を成長させ、成長する多くの機会を与えてくれました。ここには良いことも悪いこともたくさんあり、バラ色ではありませんが、ありがとうと言うのは値します。ありがとう日本。私が出会ったすべての良き友人に感謝します。皆さんに会えて嬉しいです。

（前ページより）

ました。日本人は皆、忙しい人が多くて、例えば子供たちも日曜に行事や色々な用事がある事が多いです。そんな事情もあり、毎週子供たちと一緒に教会に行く事は難しいのですが、教会に娘たちを連れて行ける時はとても嬉しく思います。

私は木材の家具、建具を作る職人です。イタリアの父から仕事を学び、来日前にはオーダーメイド家具を作ったり、ウッドサッシを作ったりしていましたが、こちらに引っ越して来てからも、その仕事を続けています。

趣味は音楽を聴くことや読書などです。好きなスポーツはF1です。また、時間のある時には子供たちと自転車に乗って公園に行く事が最高に楽しいです。

私の故郷はイタリアの中でも北部、ベネト州にある小さな村です。村の名前はスミーゴと言います。イタリアではどの町にもある様にスミーゴにも教会があります。実家はちょうど教会の手前にありますので、幼いころからよく通っていました。日本に来てから、家の近くにカトリック教会がある事を知った時はとても嬉しかった事を覚えています。そして、カトリック丸亀教会コミュニティーの一員になり、長い年月が経ちました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

桜町教会

ベトナム青年たちの

2023年サマーキャンプ 素晴らしい時間でした！

桜町ユース「愛すること―奉仕すること」。これは桜町教会のベトナム青年たちが選んだスローガンです。他の年もそうでしたが、夏になると毎年私たちはグループで一緒になって出かけ、一日を過ごします。その目的は、私たちが一つの家族の精神で結ばれて、神と教会への信仰と愛が強められることです。

２０２３年６月18日、私たちは女木島にデイキャンプに行きました。多くのベトナム人青年が集まり、楽しいひとときを過ごしました。そこには日本人の若者たちも参加していました。参加した若者は45人。ベトナム人だけでなく、日本人もいたというのは素晴らしいことでした。まさに一緒に遊び、一緒に学び、一緒に分かち合う国際的コミュニティのように。愛と喜び、そして宗教さえも分かち合う雰囲気は、本当にとても意義深いものでした。グループにはカトリック信者でない人たちもいました。しかし、それでも私たちは霊においてひとつでした。私はある若い日本人男性にとても感動しました。彼はカトリックではありません。彼は私に近づき、こう尋ねました。「シスター、もし次回また集まりがあったら、一緒に参加してもいいですか?」。私は「もちろんです。いつでも大歓迎ですよ」と答えました。彼はとても喜びました。

そうです。これがイエスの弟子であるためのひとつの方法です。喜びと愛が分かち合われ、他の人々に広がるとき、それはイエスが宣べ伝えられたことになるのです。神が私たちに注いでくださるすべての素晴らしいものに感謝します。

できれば、このような姿勢がこれまでと同じように小教区の皆さんと分かち合われ、受け継がれ、教会が、わたしたちが異なる文化から学び、経験し、互いに若さと知恵を交換する場となることを願っています。私たちをこの桜町教会に集めてくださった神様に感謝します。いつも感謝しています。

神がいつも私たちを祝福してくださいますように!!

（下段コラムに原文）

◇教区スケジュール◇

7月
- 1日（土）福者ペトロ岐部司祭と187殉教者
- 2日（日）年間第13主日
- 3日（月）聖トマ使徒
- 9日（日）年間第14主日
- 11日（火）司牧者懇談会
- 16日（日）年間第15主日
- 23日（日）年間第16主日
- 25日（火）聖ヤコブ使徒
- 30日（火）年間第17主日

8月
- 6日（日）主の変容 日本カトリック平和旬間（15日まで）
- 8日（金）聖ドミニコ司祭
- 12日（土）下田武雄師命日
- 13日（日）年間第19主日
- 15日（火）聖母の被昇天
- 20日（日）年間第20主日
- 24日（木）聖バルトロマイ使徒
- 27日（日）年間第21主日　佐々木光雄師命日

教区報バックナンバーのご紹介

高松教区のホームページには、フルカラーの教区報を掲載しています。右のＱＲコードからご覧下さい。

地区・ブロックの話題

～西讃ブロック～

観音寺教会でのマリア祭

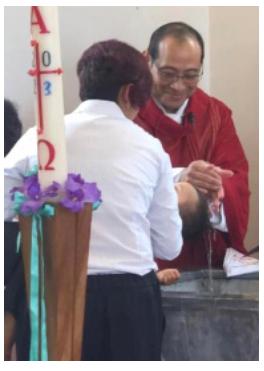
山口知恵子

5月28日聖霊降臨の日に、観音寺教会では盛大にマリア祭が行われ、ごミサの前にベトナムの若人たちが手作りの花籠をもって、音楽に合わせ祝いのダンスとお花を捧げ、続いて他の国の方々、私たち参加者全員一人ひとり、生花を持ってマリア様のご像の前で祈りとお花を捧げました。

続いて聖霊降臨のごミサが行われ、その中でお二人の洗礼式がありました。幼児洗礼の前田みつき（ルカ）ちゃんと大人の三好猛夫（ゼフィリノス）さんです。久々に若い力が小さな教会に加わり、喜ばしい限りです。今までもいろいろ教会の仕事を積極的にしてくださっておりこれから益々、神様の恵みのうちに歩み続けられますよう念じております。

ごミサの後、聖霊降臨と洗礼をお祝いして、久しぶりに皆でベトナムのお菓子とアイスクリームで乾杯！和やかなひと時を過ごしました。

蛇足ながら翌日29日は幼稚園のマリア祭がありました。何年振りかでやっと保護者の方々も声をかけ、保護者に共に参加して、神父様や園児たちの後から祈りを捧げました。注意しながらも、少しずつ日常の生活が平常に戻りつつあることが嬉しくて書き加えました。



上段＝洗礼式
下段＝幼稚園マリア祭